



## スペシャルオリンピックス参考資料

### スペシャルオリンピックスの競技会精神

The most important thing in Special Olympics is not who is the strongest or most vigorous.  
It is the spirit to overcome individual barriers.  
Winning medals lose their significance without this spirit.  
However there is no defeat if this spirit is there.

Eunice Kennedy Shriver

スペシャルオリンピックスで大切なものは、最も強い体や目を見張らせるような記録ではない。  
それは各個人のあらゆるハンディに負けない精神である。  
この精神なくしては勝利のメダルは意味を失う。  
しかしその気持ちがあれば決して敗北はない。

創設者 ユニス・ケネディ・シュライバー

(スペシャルオリンピックス日本 訳)

### スペシャルオリンピックス アスリート宣誓

Let me win. But if I cannot win, let me be brave in the attempt.

わたくしたちは精一杯 力をだして勝利を目指します。  
たとえ、勝てなくても、頑張る勇気をあたえて下さい。

(スペシャルオリンピックス日本アスリート 訳)



## スペシャルオリンピックス(SO)とは

知的障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。SOでは、これらのスポーツ活動に参加する知的障害のある人たちをアスリートと呼んでいます。

1962年に故ケネディ大統領の妹ユニス・ケネディ・シュライバー夫人が、自宅の庭を開放して開いたデイ・キャンプがスペシャルオリンピックス(SO)の始まりです。知的障害があるために、まだ一度もプールで泳いだり、トラックを走ったり、バスケットボールをしたことがない人たちにスポーツを提供する、それが彼女の願いでした。実は彼女の姉ローズマリーには、知的障害がありました。

1968年にジョセフ・P・ケネディJr.財団の支援により組織化され、「スペシャルオリンピックス」となり、全米から世界へと拡がっています。また1988年に、国際オリンピック委員会(IOC)と「オリンピック」の名称使用や相互の活動を認め合う議定書を交わしています。本部はアメリカ、ワシントンD.C.にあり、世界207の国と地域で、約360万人のアスリートと77万人以上のボランティアが活動に参加しています。現在、SO国際本部(SOI)の会長は、創設者ユニスの子息であるティモシー・シュライバーが務めています。

スペシャルオリンピックスが提供する継続的なスポーツ活動は、アスリートたちの健康や体力増進、スキルの向上を促進するだけでなく、多くの人々との交流が彼らの社会性を育んでいきます。また、適切な指導と励ましがあれば、アスリートたちは少しずつでも確実に上達し、自立への意識を高め成長していきます。参加するボランティアたちもアスリートから多くのことを学びます。

スペシャルオリンピックスは大会名のみではありません。「スペシャルオリンピックス」の名称が複数形で表されているのは、この名称が大会名のみではなく、年間を通して様々なプログラムが継続的におこなわれていることを意味します。

スペシャルオリンピックスは非営利活動ですから、運営はすべてボランティアと善意の寄付によっておこなわれています。アスリート、ファミリー、そしてボランティアが一緒になって参加し、活動を支えているのです。



## 日本では

1980年に「日本スペシャルオリンピック委員会(JSOC)」が設立され活動を行っていましたが、1992年に解散しました。そうした中、1991年夏の世界大会に熊本から参加した10才のアスリートと彼女を育てたボランティアコーチが、体操競技で銀メダルを獲得しました。ダウン症と難聴のあるアスリートの挑戦する姿は多くの人々の感動を呼び、熊本の地でボランティアの輪が広がり、1993年3月「スペシャルオリンピックス熊本」が発足、翌1994年11月に国内の本部組織である「スペシャルオリンピックス日本(SON)」が設立されました。

現在は47都道府県全てに活動が広がり地区組織が設立され、全国で約7,700人のアスリートと10,200人以上のボランティアが参加しています。

スペシャルオリンピックス日本は2001年5月22日、特定非営利活動法人(NPO法人)として内閣府より認証を受け、2006年には国税庁より認定NPO法人の認証を受けました。更に、2012年3月13日に内閣府より、公益財団法人の認定を受け、2012年4月より正式に「公益財団法人スペシャルオリンピックス日本」としての活動を開始しました。

## 日常的なスポーツトレーニング・プログラム

スペシャルオリンピックスの最も大切な活動は、各地で行われる日常的なスポーツトレーニング・プログラムです。アスリートの住む地域の施設を会場に、同じ地域に住むボランティアが運営、コーチなどを務め、アスリートたちとスポーツを楽しむことがプログラムの基本方針です。このプログラムで、アスリートはチャレンジする勇気を身につけ達成する喜びを知ります。さらに、ボランティアと親しみ仲良くなることで彼らの世界は広がり、地域社会にふれあう機会を得ます。一方で、ボランティアもアスリートたちと接することにより、知的障害に対する理解を深めながら人として大切な多くのことを学び、地域社会もアスリートたちを普通に当たり前に受け入れていくことになります。

今、この瞬間も世界のどこかでアスリートたちがプログラムに参加し、多くのボランティアがそれぞれのプログラムを支えています。

現在日本では、夏季17競技(競泳、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボッチャ、ボウリング、馬術、サッカー、ゴルフ、体操競技、ソフトボール、卓球、テニス、バレーボール、自転車競技、柔道、フライングディスク)、冬季8競技(アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング、ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー、フロアボール)のスポーツトレーニング・プログラムが提供されています。その他にも<sup>1</sup>ヤングアスリート・プログラムや<sup>2</sup>MATP 各プログラムは、専門コーチばかりではなく、一般の市民ボランティアの参加を積極的に呼びかけています。またアスリートと知的障害のないパートナーがチームやペアを組んで競技する「ユニファイドスポーツ®」にも取り組んでいます。

<sup>1</sup> 知的障害のある2~7歳の子供達(アスリート)のため にスポーツを基本に開発した“遊び”的プログラムです。

<sup>2</sup> モーター・アクティビティーズ・トレーニング・プログラムの略称。世界共通の競技ルールに基づいた競技に参加することが困難な重複障害のある方やより介護度の高いアスリート向けに提供するプログラムです。



## 競技会は地区から世界まで

スペシャルオリンピックスの競技会は地区大会、ナショナルゲーム(全国大会)、世界大会等があります。国内では、1995年熊本で初の夏季ナショナルゲームが開催され、翌1996年には宮城と福岡で初の冬季ナショナルゲームが開催されました。近年では、2024年に長野県と北海道で第8回冬季ナショナルゲームが開催され、789人の選手団、延べ1,225人のボランティアが参加しました。

世界大会は、日頃のトレーニングの成果の発表としてだけでなく、異文化社会の体験と交流の場として、1968年の第1回夏季大会を皮切りに、夏季冬季とも4年毎に開催されています。スペシャルオリンピックス日本は1995年7月に開催された、第9回夏季世界大会アメリカ・コネチカット州大会以来、毎回日本選手団を派遣しています。また、2005年2月には、アジアで初めての冬季世界大会が長野で開催され、約2500人の選手団、約11,000人のボランティアが参加しました。今年、2025年にはイタリアで第12回冬季世界大会が開催され、56人の日本選手団を派遣しました。

## ディビジョンとは

スペシャルオリンピックスでは、アスリートの可能性が最大限に發揮できるよう、競技会でディビジョンをおこないます。ディビジョンとは、年齢、性別、競技能力の到達度などに応じてクラス分けすることですが、ほぼ同じ競技能力レベルで競い合うことにより、アスリートにとって最も効果的な競技環境を提供することができ、アスリート個々人の成長を刺激することができると考えています。競技能力は、15%程度の範囲内で分けられます。

また、スペシャルオリンピックスの競技会で予選落ちはありません。予選はディビジョンであり、競技会に出場したアスリートは全員が決勝に進み、全員が表彰台に立ち表彰を受けます。全てのアスリートに勝利のチャンスが与えられているのです。

## トレーニング・フォー・ライフ

スペシャルオリンピックスでは、スポーツをすること自体がアスリートたちの最終目標であるとは考えていません。スポーツは、彼らの可能性を伸ばすために適した最良の方法の一つだと考えています。スペシャルオリンピックスの最大の目標は、アスリートたちのさまざまな能力を高めること、彼らに自信と勇気を持ってもらうこと、そして彼らの心と体を成長させることにあります。

トレーニングや競技の現場で身につけたことが、アスリートの人生において彼ら個人の向上や自立、社会参加につながることを目指し、そのための機会を途切れることなく提供していきたいと考えています。彼らがあらゆる意味で成長し、責任を持って仕事をこなし、リーダーになれることを示したいと願っています。



## ナショナルゲーム(全国大会) 過去大会一覧表

1995年 3月 25~26日 (開催地) (参加人数)	<b>第1回夏季ナショナルゲーム熊本大会</b> 熊本県熊本市 アスリート 137名 コーチ他 64名
1996年 2月 23~26日 (開催地) (参加人数)	<b>第1回冬季ナショナルゲーム宮城大会</b> 宮城県蔵王町 アスリート 34名 コーチ他 17名
1996年 6月 8~9日 (開催地) (参加人数)	<b>第1回冬季ナショナルゲーム福岡大会</b> 福岡県福岡市 アスリート 45名 コーチ他 21名
1998年 8月 28~30日 (開催地) (参加人数) (実施競技)	<b>第2回夏季ナショナルゲーム神奈川大会</b> 神奈川県平塚市 アスリート 194名 コーチ他 134名、香港選手団(アスリート 6名 コーチ他 4名) 水泳競技、陸上競技、バスケットボール、ボウリング、サッカー、体操競技、卓球、 バレーボール
2000年 2月 25~27日 (開催地) (参加人数)	<b>第2回冬季ナショナルゲーム長野大会</b> 長野県長野市、牟礼村 アスリート 121名 コーチ他 81名 台湾選手団(アスリート 7名 コーチ他 4名) 韓国選手団(アスリート 6名 コーチ他 4名)
2002年 8月 15~18日 (開催地) (参加人数) (実施競技)	<b>第3回夏季ナショナルゲーム・東京</b> 東京都新宿区、渋谷区、調布市 アスリート 816名 コーチ他 546人、海外選手団(中国、台湾、マカオ、香港、タイ / アスリート 82人 コーチ他 29人) 水泳競技、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、 サッカー、体操競技、卓球、テニス、バレーボール、フライングディスク
2004年 2月 27~29日 (開催地) (参加人数) (実施競技)	<b>第3回冬季ナショナルゲーム・長野/2005年SO冬季世界大会・プレ大会</b> 長野県長野市、山ノ内町、白馬村、牟礼村 アスリート 620名、ユニファイドパートナー 24名、コーチ他 393人 海外選手団(中国、香港、マカオ、シンガポール、韓国、ロシア、チェコ、 ポーランド、ニュージーランド、スロベニア、オーストリア / 招待参加アスリート 87人) アルペンスキー、クロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング、 ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー
2006年 11月 3~5日 (開催地) (参加人数) (実施競技)	<b>第4回夏季ナショナルゲーム・熊本</b> 熊本県熊本市、阿蘇市、南阿蘇村 アスリート 1016名、コーチ他 560名、海外選手団(中国、中華台北) 水泳競技、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、サッカー、ゴルフ、 体操競技、卓球、テニス、バレーボール、フライングディスク



2008年 3月 7～9日	<b>第4回冬季ナショナルゲーム・山形</b> 山形県山形市 アスリート 566名、コーチ他 330名、参加地区 32地区 アルペンスキー、クスロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイングショート トラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー
2010年 11月 5～7日	<b>第5回夏季ナショナルゲーム・大阪</b> 大阪府大阪市、吹田市、門真市、茨木市、堺市 アスリート 1042名、コーチ他 591名、参加地区 46地区 水泳競技、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、サッカー、 ゴルフ、体操競技、卓球、テニス、バレーボール、フライングディスク
2012年 2月 10～12日	<b>第5回冬季ナショナルゲーム・福島</b> 福島県郡山市、猪苗代町 アスリート 574名、コーチ他 320名、参加地区 33地区 アルペンスキー、クスロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング、 ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー
2014年 11月 1～3日	<b>第6回夏季ナショナルゲーム・福岡</b> 福岡県福岡市、北九州市、宗像市、古賀市、粕屋町 アスリート 975名、コーチ他 593名、参加地区 47地区 水泳競技、陸上競技、バドミントン、バスケットボール、ボウリング、サッカー、 ゴルフ、体操競技、卓球、テニス、バレーボール、フライングディスク、 馬術(エキシビジョン)
2016年 2月 12～14日	<b>第6回冬季ナショナルゲーム・新潟</b> 新潟県新潟市、南魚沼市 アスリート 614名、コーチ他 329名、参加地区 31地区 アルペンスキー、クスロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング、 ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー
2018年 9月 22～24日	<b>第7回夏季ナショナルゲーム・愛知</b> 愛知県名古屋市、豊田市、刈谷市、日進市、大治町 アスリート 996名、コーチ他 602名、参加地区 47地区 競泳、陸上競技、バトミントン、バスケットボール、ボウリング、馬術、サッカー、 ゴルフ、体操競技、卓球、テニス、バレーボール、フライングディスク
2020年 2月 21～23日	<b>第7回冬季ナショナルゲーム・北海道(中止)</b> ※ 新型コロナウィルス感染症の影響を受け大会中止 北海道札幌市、江別市、岩見沢市 アスリート 603名、コーチ他 335名、参加地区 37地区 アルペンスキー、クスロスカントリースキー、スノーボード、スノーシューイング、 ショートトラックスピードスケート、フィギュアスケート、フロアホッケー
2022年 11月 4～6日	<b>第8回夏季ナショナルゲーム・広島</b> 広島県広島市、呉市、三原市、北広島町 アスリート・パートナー 826名、コーチ他 482名、参加地区 47地区 競泳、陸上競技、バトミントン、バスケットボール、ボウリング、馬術、サッカー、柔道 卓球、テニス、バレーボール、フライングディスク、自転車(デモンストレーション)



2023年11月18日～2024年2月25日 第8回冬季ナショナルゲーム・長野/北海道 ※分散開催

(開催地) 長野県長野市、北海道名寄市

(参加人数) アスリート・パートナー500名、コーチ他289名、参加地区33地区

※詳細

2023年11月18～19日

(開催地) 長野県長野市

(参加人数) アスリート・パートナー225名、コーチ他106名、参加地区19地区

(実施競技) フロアホッケー、フロアボール

2024年2月11～12日

(開催地) 北海道名寄市

(参加人数) アスリート199名、コーチ他130名、参加地区28地区

(実施競技) アルペンスキー、スノーボード、クロスカントリースキー、スノーシューライ

2024年2月24～25日

(開催地) 長野県長野市

(参加人数) アスリート76名、コーチ他53名、参加地区18地区

(実施競技) フィギュアスケート、ショートトラックスピードスケー

**世界大会 過去大会一覧表**

1968年	第1回夏季大会	アメリカ/シカゴ
1970年	第2回夏季大会	アメリカ/シカゴ
1972年	第3回夏季大会	アメリカ/ロサンゼルス
1975年	第4回夏季大会	アメリカ/ミシガン州
1977年	第1回冬季大会	アメリカ/コロラド州
1979年	第5回夏季大会	アメリカ/ニューヨーク州
1981年	第2回冬季大会	アメリカ/バーモント州
1983年	第6回夏季大会	アメリカ/ルイジアナ州
1985年	第3回冬季大会	アメリカ/ユタ州
1987年	第7回夏季大会	アメリカ/インディアナ州
1989年	第4回冬季大会	アメリカ/ネバダ州、カリフォルニア州
1991年	第8回夏季大会	アメリカ/ミネソタ州
1993年	第5回冬季大会	オーストリア/ザルツブルク
1995年	第9回夏季大会	アメリカ/コネチカット州 (143カ国が参加 / 日本選手団30名)
1997年	第6回冬季大会	カナダ/トロント (73カ国が参加 / 日本選手団17名)
1999年	第10回夏季大会	アメリカ/ノースカロライナ州 (150カ国が参加 / 日本選手団45名)
2001年	第7回冬季大会	アメリカ/アラスカ州 (80カ国が参加 / 日本選手団16名)
2003年	第11回夏季大会	アイルランド/ダブリン (160の国と地域が参加 / 日本選手団77名)
2005年	第8回冬季大会	日本/長野県 (84の国と地域が参加 / 日本選手団150名)



2007 年	第 12 回夏季大会	中国/上海 (165 の国と地域が参加/日本選手団 120 名)
2009 年	第 9 回冬季大会	アメリカ/アイダホ州 (約 100 の国と地域が参加/日本選手団 87 名)
2011 年	第 13 回夏季大会	ギリシャ/アテネ (185 の国と地域が参加/日本選手団 75 名)
2013 年	第 10 回冬季大会	韓国/江原道、平昌 (111 の国と地域が参加/日本選手団 84 人)
2015 年	第 14 回夏季大会	アメリカ/ロサンゼルス (165 の国と地域が参加/日本選手団 118 人)
2017 年	第 11 回冬季大会	オーストリア/シュラートミング (107 の国と地域が参加/日本選手団 81 人)
2019 年	第 15 回夏季大会	アラブ首長国連邦/アブダビ、ドバイ (172 の国と地域が参加/日本選手団 104 人)
2021 年	第 12 回冬季大会	ロシア/カザン ※開催中止
2023 年	第 16 回夏季大会	ドイツ/ベルリン (176 の国と地域が参加/日本選手団 73 人)
2025 年	第 12 回冬季大会	イタリア/トリノ (100 国が参加/日本選手団 56 人)